

# 光といのち

第94号

2015年5月1日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール [ino-teyy@khaki.plala.or.jp](mailto:ino-teyy@khaki.plala.or.jp)

住職 井上孝昌

円融至徳の嘉号は

悪を転じて徳を

成す正智

親鸞聖人

境内の木々は萌えウグイスのさえずりが仏ヶ谷に響き渡り、寺は今、自然の息吹につつまれています。  
真宗門徒の生活は、念仏申す生活です。「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えていますか？



先日、定年退職を迎えた旧友から挨拶状が届き「今後は、健康に留意し、有意義な毎日を過ごしていきたいと考えています」と書いてありました。八年前に教員を退職した際に、私も同じような気持ちでいたことを思い出します。

ところで「PPK」をご存知ですか。

死ぬまで迷惑かけずにピンピンコロリだそうです。健康で有意義な毎日を過ごし、他人に迷惑をかけないように死にたい。そう思っているご年輩の方が多いようです。

しかし、そんなに上手くいくはずはありません。「思い通りにならぬが娑婆（世間）」と、仏教は教えています。

題字下の法語は、親鸞聖人の

著した『教行信証』の序文にあります。

「円融至徳の嘉号」は、「あらゆる功德が円かにそなわり、無碍自在に無上の徳としてはたらく妙なる名号」、「正智」は、「阿弥陀様の智慧」（『解説教行信証』のことです。

「南無阿弥陀仏の名号は、悪を功德に転ずる阿弥陀様の智慧」という意味です。

具体的には、ピンピンコロリと逝けずに寝たきりになってしまった時、阿弥陀様の智慧である「南無阿弥陀仏」が、自分の「思い」では認め難いその人生を有意義な人生へと転換するという意味です。

これがお念仏の功德です。

念仏申す生活を、今すぐ初めてください。功德はお念仏を称えた者の身に充ち満ちます。

念仏申す生活に生きられた曾我量深師に「人生におけるすべての苦しみは、如来（阿弥陀様）の激励である」と、勇気が湧いてくる法語があります。

健康で有意義な人生がすべてだと思っていた時は、訳が解らない言葉でした。

田村晋一さん、宗務総長から  
推進員に認証される

宣誓

私には真宗門徒としての自覚を高め、以下のことに努めます

一 念仏申す生活を心がける

一 聞法に励む

一 門徒間の交流を高め深める

二〇一五年四月八日

東京教区推進員

教習修了者 一周



二月に東京の真宗会館で四月には京都の東本願寺で、各二泊三日の研修を受け、仕上げに

氏は、研修中に帰敬式を受け、御門首から釋晋求の法名を授かり仏弟子とされました。

推進員は、関口昌司さん 鈴木正一郎さん 増田征夫さんに加え四人になりました。

住職と共に率先して聞法してください。それが寺を推進する。

近年、当地域においても葬儀の行い方がずいぶん変わりました。戸惑っている方も多いようです。

かつては隣近所や親戚が頼りでしたが、今は葬儀社が相談相手として頼られています。このことは、家族関係や地域社会が変化してしまった現在、やむを得ないことであるようにも思います。

しかし、葬儀を執行する寺の住職として、

「葬儀をお勤めする心」は、大切にまもり伝えていかねばならないと考えます。また、そこがはっきりしていれば、様々な意欲や思惑に振りまわされることなく、葬儀が勤まると思います。

今回は、「葬儀や法事をお勤めする心」を掲載しました。

## 仏事としての葬儀を願って

愛しき方との別れ。避けることは出来ない<sup>いと</sup>と知ってはいても、それは本当に悲しいことでもあります。それは身近な方を失った悲しみと共に、いずれは死していかなければならない私自身のいのちの事実に向かい合う時でもあるからなのでしょう。誰しもがこの悲しみの中で、寂しさや虚しさを感じずにはおれないものです。そして、あらためて自らの人生に目を向けざるを得ないことにもなるのです。

私たちの人生は様々であり、それぞれに喜びや悲しみに包

まれています。それがたとえどのような生涯であったとしても、その人生はその人自身にとって、誰も代わることの出来ない、かけがえのない一生であります。

しかし私たちは、なかなか人生をそのように受けとめることが出来ません。人生におけるあらゆる出来事を、「善い・悪い」「好き・嫌い」「損・得」というように、それぞれの都合（立場や知識・経験）によって分別し、思い通りにならないければ苦しむという矛盾した思いのなかで生きています。その最大の矛盾が「生・死」の問題でありましょう。自分の都合だけでは生きていけないのがいのちの事実でありながら、都合の良いことばかりに目を向けて、生への執われと死への不安のはざままで、いつも苦しんでいます。だからこそ仏教は、私たち人間にその矛盾から解放されて生きるという人生の真の意味を明らかにしているのです。

私たち真宗門徒は、人生に起こる様々な問題を大事な縁として念仏の教えに遇うことによって、かけがえのない尊き人生に目覚め、生死の苦悩から解放されて、行き詰まることのない精神生活を求めてまいりました。

葬儀とは、亡き方の人生に対して心からご苦労さまでしたと手を合わせると同時に、遺った私たち自身が念仏の教えに遇う大切な機縁であるのです。私たちは、念仏の教えに領いたとき、亡くなられた方を、単なる死者としてではなく、人生の真実を教えて下さる諸仏として受けとめることが出来るのです。

大切な人との別れはつらいことですが、この深い悲しみを

正面から受けとめて、念仏の教えに遇うことこそ、亡き方から願われているのでしよう。

分らないことも多く、いろいろな戸惑いもあるでしょうが、迷信や俗説に惑わされることなく、仏事としての葬儀を勤めることが出来るように心がけたいことです。

## 法 事

法事は亡き方のご命日を機縁として、私たち一人ひとりが仏法に遇わせて頂く仏事です。

真宗の法事の原点は、報恩講にあります。報恩講とは、毎年、宗祖親鸞聖人の御命日に勤められる、私たち真宗門徒にとって一番大切な仏事であり、真宗門徒は、宗祖が念仏の教えを明らかにして下さり、そしてその教えに私たち自身が遇えた感謝の気持ちを、宗祖のご法事―報恩講―として勤めてまいりました。

私たちの親しい方々のご法事にも、これと同じ心が流れているのです。日常の生活に追われ、仏法に接する機会の乏しくなった私たちにとって、法事は仏法を聞いていく大切なご縁であります。

月毎のご命日を「月忌」、年毎の当月当日のご命日を「年忌（祥月命日）」といえます。特に、百ヶ日（亡くなられた日を含めて）から始まって、一周忌（亡くなられて満一年後）、三回忌（満二年後）、・・・、五十回忌、以後五十年ごとに年

回法要を勤めます。（左表参照）

法事は、亡き方の祥月命日に勤められるものですが、最近では集まられる方々の都合を考慮して、休日に勤められることが多くなりました。その場合でも、せめて身内だけでも、ご命日当日はお内仏にお参り致しましょう。

ご命日が近づいたら、お寺に連絡をして、お寺の都合を聞きます。日時、場所（お寺か自宅か）、人数、お齋をとるならその旨を伝えます。休日に勤められる方は、早めに連絡致しましょう。

また、様々な理由により、寺や自宅以外で法事を営むこともありますが、ご本尊を安置することだけは忘れないように致しましょう。

（東京四組教化委員会発行『真宗門徒の葬儀』参照）

一	周忌	平成二十六年（2014年）
三	回忌	平成二十五年（2013年）
七	回忌	平成二十一年（2009年）
十三	回忌	平成十五年（2003年）
十七	回忌	平成十一年（1999年）
二十五	回忌	平成三年（1991年）
三十三	回忌	昭和五十八年（1983年）
五十	回忌	昭和四十一年（1966年）
百	回忌	大正五年（1916年）

※ 23 回忌 27 回忌 37 回忌をすることもあります。

**門徒会臨時総会と研修会**

(三月二十五日 市川市即隨寺)

任期満了に伴う今回の改選では、各寺の門徒会員に必ず女性を含めることに宗門の条例が改正されました。五十四人の会員の内、男性は二十七人、女性も二十七人となりました。

当寺からは、昨年の世話人総会で選定された 田村晋一さん 増田征夫さん 大胡登美子さんが出席しました。臨時総会では、田村さんが常任委員に再選されました。写真は増田さんが議長を務めているところです。



研修会では、「男女でつくるこれからの寺」という題で、橘出教

導のお話しを聞きました。

寺の活性化には、男女共同参画、特に女性の力が必要とされているとのこと。最近、「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」が日本遺産に認定されましたし、「かかあ天下」のほうが、何事も上手くいく時代かもしれませぬね。

**花まつり(四月五日(日))**



四月八日に近い日曜日に毎年しています。甘茶を仏様に濯ぎ手を合わせ、紙芝居を観ました。

その後西山三保子先生と三人のお弟子さんがお点前してくださり、季節のお菓子と抹茶を満喫しました。緋毛氈の上に並び集合写真を撮りました。



**親鸞教室**

海法龍先生のお話しを聞き、座談会で話し合います。同じ話しを聞いても受け止め方が各自に違いおもしろいです。

日時 五月二十一日(木)

十二時半～受付

十三時～十六時

場所 勝善寺

参加費 千円

持ち物 念珠 門徒章 筆記用具

※準備の都合上、五月十四日までにお申し出ください。

**東京教区同朋大会**

日時 六月二日(火)

場所 文京区シビックホール

富楽里に十時に集合し十八時

ごろ帰着します。

参加する方は、五月二十六日までにお申し出ください。

**千葉組婦人研修会**

日時 六月十二日(金)

場所 市川市即隨寺

参加ご希望の方は、五月中にお申し出ください。

**新盆(初盆)**

大切な方を亡くし、初めてのお盆を迎える方、日時・お飾り等について、早めにご相談ください。亡き方を縁として仏法に出遇う大切な仏事です。



真宗大谷派の切子灯籠です。

**行事予定**

毎月曜日 6時30分～お勤め練習

5月10日14時～ 同朋の会

5月21日 親鸞教室

6月2日 東京教区同朋大会

6月7日9時～ 八日講十日講

6月12日 同朋の会

6月17日 婦人研修会

6月28日8時30分～ 奉仕作業

7月19日14時～ 同朋の会

8月10日10時～ 孟蘭盆会

9月23日10時～ 秋彼岸会

10月11日14時～ 同朋の会

10月18日13時30分～ 世話人総会

11月16日13時30分～ 仏具磨き

11月20日 報恩講 準備 速夜

11月21日 報恩講 晨朝・日中

※・以外は当寺が会場です。